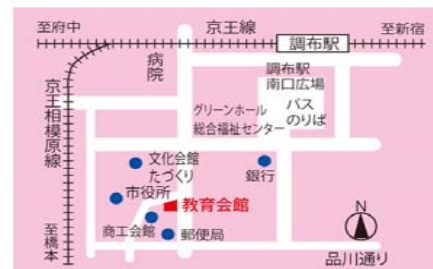


第6回市民サロン開催のお知らせ

マスタープランの見直しについて、自由参加形式により参加いただいた方々で話しを進めます。市民の方であれば参加は自由ですので、お気軽にご参加ください。

■会場案内図
※お車でのご来場はご遠慮ください。



日程 平成25年3月7日(木)午後7時から
場所 調布市教育会館 3階301・302研修室
主要内容 災害に備えるまちづくりをテーマとした話し合い
(後半 課題の解決策編)

～今回の市民サロンの進め方～

第6回市民サロンでは、第5回で話し合った「災害に備えるまちづくり」に関する課題や問題点について、解決するためにはどのような取組が必要か、何を強化すべきなのかといったことについて、グループごとに話し合います。

■ 第6回市民サロンの話し合いの手順 (イメージ)

【ステップ1】

第5回市民サロンの意見をもとに課題や問題点を共有化

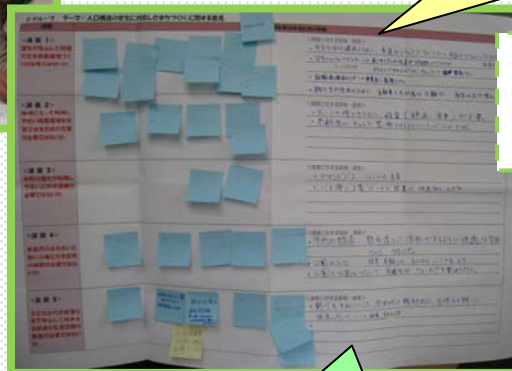


建物が密集している地域では対策が必要だ

提案
木造住宅が密集している地域は具体的な街づくりのルールづくりが必要だ

【ステップ2】

課題を解決するために必要な取組提案をグループごとに集約



避難経路となる道路が狭いため対策が必要だ

提案
避難経路の軸となる道路は優先的に整備を進める必要がある

【ステップ3】

検討内容の発表



■ 調布市では、マスタープランの見直し作業の過程等について、このニュースでわかりやすくお知らせしていきます。
発行 調布市都市整備部 都市計画課 都市計画係
Tel : 042-481-7453 Fax : 042-481-6800 mail : tikubetu@w2.city.chofu.tokyo.jp

登録番号
(刊行物番号)
2012-232

調布市

第6号

都市計画マスタープラン 見直しニュース

平成25年2月21日発行

調布市では、長期的・総合的な視点から今後の都市計画の指針となるものとして平成10年に策定した「調布市都市計画マスタープラン」の見直し・改定に向けた取組を進めております。

第5回都市計画マスタープランを考える市民サロンを開催しました!

マスタープラン改定に向けて、第5回市民サロンを1月29日(火)午後7時から開催しました。当日は24人の市民の方にご参加いただき、多くのご意見をいただきました。

■ 第5回市民サロンの概要について

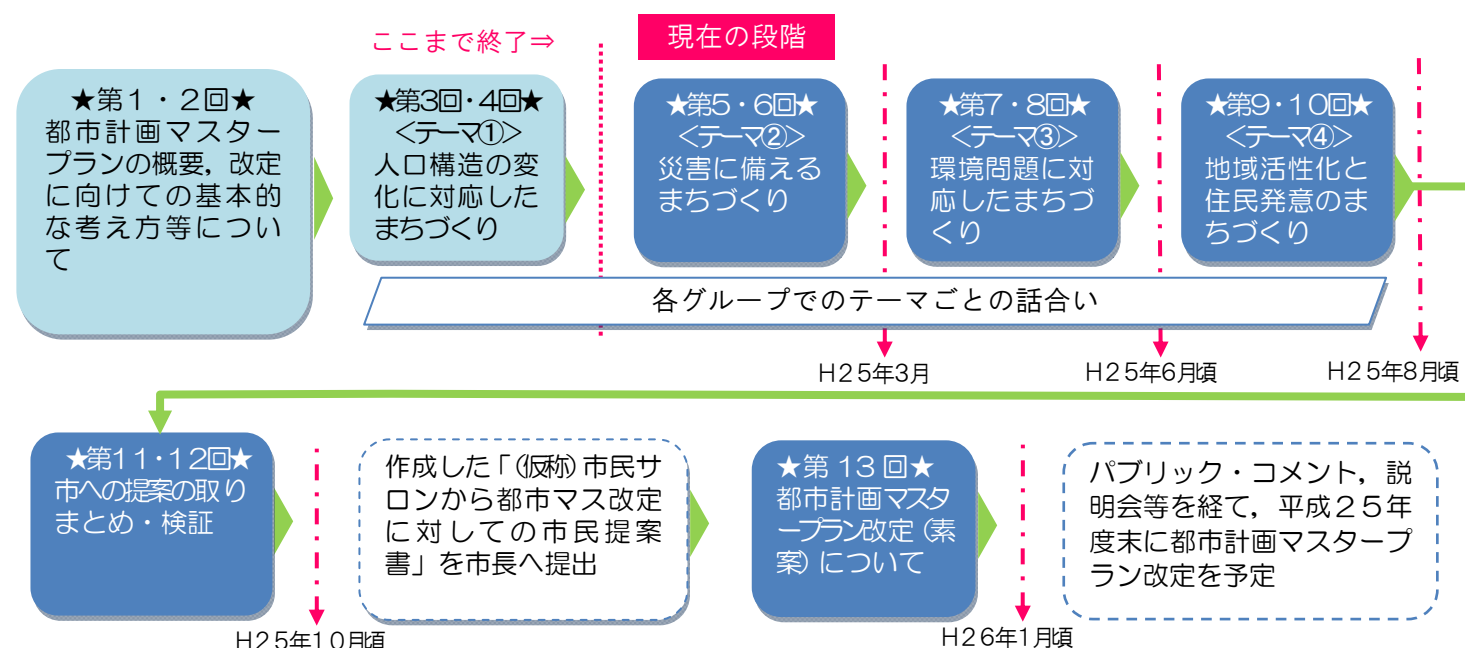
平成23年に発生した東日本大震災や、昨今多発する集中豪雨等による水害災害などを受け、全国的に、まちの防災・減災に向けた取組や備えに対する市民意識が高まっています。第5回市民サロンでは、「災害に備えるまちづくり」をテーマに話し合いを行いました。

当日は、はじめに、前回の振り返りとして、市から第4回市民サロンでいただいたご意見の概要を紹介し、その後、グループに分かれて、テーマについて話し合いを行いました。グループごとの話し合いでは、近年の市内の災害状況や市内の避難場所・防災軸となる道路等の位置付け、耐震改修や都市基盤整備といった防災に関する取組状況を市から説明し、防災・減災の視点で考えられる課題や問題点について意見交換を行いました。

※当日の話し合いの内容は、中面をご覧ください。

■ 市民サロンでの検討の流れ

市民サロンでは、近年の社会情勢等の変化をもとに、大きく4つのテーマについて意見交換を行っています。1つのテーマにつき、2回の市民サロンで話し合いを行い、市への提案として取りまとめることを予定しています。



※このスケジュールは、現在の予定を示したものですので変更になることがあります。

Aグループ

■グループによる話し合いの様子



関連分野	関連する施策	主なご意見
交通	生活道路等の整備	・現行の都市マスには、 狭あい道路や行き止まり道路の解消 を位置づけているが進んでいない。解消に向けて道路整備を進めるために工夫する必要がある。
環境	湧水・地下水・雨水の確保	・河川や下水道は、1時間あたり50ミリ程度の降雨を想定した整備をしてくれているようだが、いざ豪雨になった場合は対応しきれぬのか。 雨水を地下に浸透させることや貯留 することが必要ではないか。
防災、地域活性化	貯水槽の設置など、消防水利を充実	・ 雨水タンクの設置 を普及促進させるとよい。市の助成制度を廃止したとのことだが、雨水は災害時には生活用水としても活用でき、貴重である。
	避難・救援施設等の確保	・民間企業や大学などの組織との 連携を深めて防災拠点づくり のようなことが考えられないか。特に、深大寺東町周辺は避難場所が少ない。
	コミュニティの育成等地域連携の充実	・市内の小中学校の避難所では防災備蓄コンテナを設置しており、食料や資機材などが備蓄されているが、どの程度されているのか、もっと 市民に知ってもらう ことが必要ではないか。とても地域住民全員を避難所に受入れることができないと思う。また、備蓄等にも限りがあると思うので、 災害時に備えて自助による防災力の向上を図る ことも大切である。

Bグループ

■グループによる話し合いの様子



関連分野	関連する施策	主なご意見
交通、住環境	生活道路等の整備、都市計画等の諸制度を活用したまちづくり	・震災時の安全な避難や火災の危険性を考えると、住宅地内の 狭あい道路の対策 が大事である。狭あい道路の拡幅や最低敷地面積の制限などの 街づくりのルールを定めていく ことが必要である。
環境	湧水・地下水・雨水の確保	・水害対策の取組としては、河川の治水強化とあわせて、 雨水の一時貯留や雨水浸透ますの設置 などをもっと普及促進する必要がある。
防災、地域活性化	災害に強い都市基盤整備、コミュニティの育成等地域連携の充実	・震災が発生した場合、市民が 安全に避難 できるように、防災マップ等で身近な公園や緑地、農地なども含めて 避難場所を示してほしい 。
		・道路や公園等へ安全に避難するために、対策を講じることは必要であるが、個人の災害への備えも減災には重要である。また、地域全体で 住民の防災意識を高める ことが大事である。
		・防災意識の向上や災害時の対応は、希薄になりつつある 近隣住民同士のつながり を充実させていくことが必要である。道路や公園などのハード面の整備に合わせた対応とともに、 地域コミュニティの活性化 などのソフト面の対策も併せて進めていくことが大切である。

第5回市民サロンの様子

～市民サロンでいただいたご意見を紹介します～

Cグループ

■グループによる話し合いの様子



関連分野	関連する施策	主なご意見
防災、交通	地域の特性に応じた市街地の整備による防災性向上、生活道路等の整備	・避難場所までの経路となる生活道路の整備を進めることが重要である。 6m以上の幅員の生活道路の整備や電線の地中化 などをもっと進めるべきである。
		・地域によって、災害が発生する原因や被害の程度が異なるので、 地域特性に応じた対策 を検討する必要がある。
防災、地域活性化	住宅等建築物の耐震性、不燃性の向上	・地震により倒壊した建物の瓦礫が道路を塞ぎ、救助活動等の妨げとなる恐れもあるため、 老朽化した住宅の耐震化や不燃化対策 について、もっと助成を行うことが必要ではないか。
	貯水槽の設置など、消防水利を充実	・地震によって消火栓が利用できないことも十分予想されるので、 防火水槽の設置を積極的に促進 すべきである。
	コミュニティの育成等地域連携の充実	・地震が発生した際の二次火災を減らすためにも、 防災意識の普及を活発に行い 、市民の意識啓発を高めることも大切である。 ・大規模な災害の際の、 災害弱者や高齢者施設等に対する支援体制（避難支援、食料供給等） を事前に確立しておく必要がある。

Dグループ

■グループによる話し合いの様子



関連分野	関連する施策	主なご意見
防災、交通	避難・救援施設等の確保、生活道路等の整備	・災害時に円滑な救助・消防活動を進めるためにも、避難経路となる道路や、けが人の搬送の際に主軸となる 道路の整備を促進 する必要がある。
	避難・救援施設等の確保	・駅周辺などでは、 放置自転車 が道路を塞いでしまっていることがある。いざ災害が発生した場合、 緊急車両が通れるように日ごろから対策 をとっておくことが必要である。
防災、地域活性化	避難施設のバリアフリー化	・一時避難場所としての利用が想定される公園、避難所に指定されている小中学校等では バリアフリー化 が十分でない施設も多いので、誰もが安心して使用できるように、 計画的な整備の推進 が必要である。
	避難・救援施設等の確保	・味の素スタジアムや隣接して整備中のスポーツ施設などの 民間施設 についても、 災害時に活用 できるように積極的に働きかけてはどうか。 ・大地震が発生した場合、まずは一時避難場所へ避難し、その後、避難所に移動することになる。避難所までの経路となる道路を避難者が安全に歩けるように、 道路上の瓦礫等を速やかに撤去できるような体制づくり をするべきである。
	コミュニティの育成等地域連携の充実	・災害時に市民同士で助け合い、100%の力を出せるよう、防災市民組織で 防災訓練を行う など、 日ごろから地域住民の協力体制を構築 しておくことが必要ではないか。